

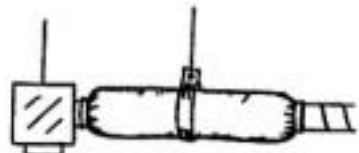
## ○フレキシブルダクト施工要領

- ①スパイラルダクトの末端に、フレキシブルダクトの一端を被せ、締め付けバンドで固定しダクトテープを巻く。



- ②他端を器具ボックスの入り口単管に被せ

①と同じ要領で、取り付けする。



- ③フレキシブルダクトが、垂れ下がる場合は、1～1.5mに1か所の割合で、吊りバンドにて吊り上げる必要があります。

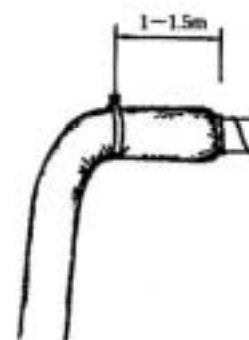
\*垂れ下がりが大きい場合、圧力損失が増加しますので、できるだけ、垂れ下がりの無いように取り付けをします。

\*吊りバンドの幅が狭いとフレキシブルダクトの外被材の破れ、内断面の変形、等の原因となりますので50mm以上の幅のものを、お勧めします。

## ○長尺フレキシブルダクトの施工要領

- ① スパイラルダクトの末端に、フレキシブルダクトの一端を被せ、締め付けバンドで固定しダクトテープを巻く。

- ② フレキシブルダクトが垂れ下がらない様に、1～1.5m間隔で、吊りバンドで吊り込む。



- ③ 他端を器具ボックスの入り口単管に被せ①と同じ要領で、取り付けする。

